



ながれ

相手に気持ちの伝わるあいさつ

副校長 深尾 剛

「おはようございます。」

毎朝校門では、子供たちの声が響いています。今年度から戸三小では、子供たちによるあいさつ運動が行われています。あいさつは、自分の心を開くことで、相手の心を開き、相手の心に近づいていくことができます。まさにコミュニケーションの第一歩です。人とあいさつがきちんとできると、とても気持ちが良いものです。

あいさつ運動を終えた子供たちに、良いと思ったあいさつはどんなあいさつか聞いてみると「元気にしてくれるあいさつ。」「こっちを見てしてくれるあいさつ。」「おじきしてくれるあいさつ。」という声が返ってきました。その答えに、もっともだと思いました。ある本で読んだのですが、人の第一印象は、その人の話した言葉が7%、声の大きさや口調が38%、話すときの表情やしぐさが55%の割合を占めるそうです。あいさつとして何を言ったかということだけでなく、あいさつするときの表情や動作が重要だということです。



【登校時のあいさつ運動】

学校では「語先後礼（ごせんごれい）」を大切にしています。「語先後礼」は、言葉を先に言い、お辞儀を後にすることで、あいさつの基本とされています。日常的なあいさつは、「同時礼」（言葉とお辞儀が同時）で行うことも多いですが、言葉を発しているときは床に向いていることとなります。「語先後礼」ですと、相手の目や表情を見てあいさつができるという良い点があります。学級を見てまわると、朝のあいさつ、授業でのあいさつ等で「語先後礼」が少しずつ定着してきています。

「おはようございます。」

気持ちの良いあいさつのできる子が、戸三小の中で増えてきています。学校でも、家庭でも、どこでも戸三小の子供たちが、相手に気持ちの伝わるあいさつができるようにしていきたいと思えます。御協力をお願いいたします。

学年の窓 — 3年

3年1組担任 永井 輝彦

今年度が始まって3か月が過ぎました。授業では、落ち着いて学習に取り組んだり、休み時間は、元気に外で遊んだりする子供が増えました。

3年生になり、クラス目標を決めました。「元気なあいさつ」「給食の準備は15分以内」「チャイム着席」等、クラス全員で話し合いました。目標がなかなか達成できない時は、子供たちが学級会で司会進行し、みんなで何度も話し合いました。クラス目標達成に向けて、頑張ろうとする子供が増えました。例えば、授業が始まる前に、「そろそろチャイムになるよ。」「チャイム着席。チャイム着席」とみんなで声を掛け合っている姿を見て、クラス全体の成長を感じています。

今、3年生はダイズやオクラ、マリーゴールド、ホウセンカといった、たくさんの植物を育てています。子供たちは、休み時間に忘れず水やりをしたり、雑草を抜いたりして、元気に育つように主体的に活動しています。

このように、教師から言われたことをやる受け身ではなく、何事も自分から進んで取り組めるように、引き続き、努めていきます。

7月の行事予定

※7月の避難訓練は予告なしで行います。

1	金	安全指導	18	月	海の日
2	土		19	火	給食終
3	日		20	水	終業式 B時程4校時授業 12:30 夏季施設閉館研修5年参加者 13:30～
4	月	全校朝会 委員会活動 歯磨き週間始	21	木	夏季休業日始 夏休み学習教室 個人面談① 女神湖夏季施設15年
5	火	神田川ファンクラブ 4年 放課後学習教室	22	金	夏休み学習教室 個人面談② 女神湖夏季施設25年
6	水	B時程4校時授業 13:10一斉下校	23	土	女神湖夏季施設35年
7	木	東京都学力向上を図るための調査5年	24	日	
8	金	歯磨き週間終 親子レクリエーション1年	25	月	夏季水泳指導① 新宿西戸山中読み聞かせ
9	土		26	火	夏季水泳指導② 個人面談③ 夏休み学習教室
10	日		27	水	夏季水泳指導③ 個人面談④ 図書室開放
11	月	全校朝会 着衣泳1～4年 クラブ活動	28	木	夏季水泳指導④ 個人面談予備日
12	火	放課後学習教室	29	金	夏季水泳指導⑤ 個人面談予備日
13	水	B時程5校時授業 14:00一斉下校 着衣泳5・6年	30	土	
14	木		31	日	
15	金	こころの劇場(観劇) 6年 放課後ゼミ			
16	土				
17	日	サマーフェスティバル 15:30			※ 個人面談、夏休み学習教室は、学年によって実施日が異なりますので、学年からの手紙を御覧ください。

保健室より

養護教諭 飯岡 さや香

保健室には、同じ時間に数人が来室することがあります。私が声を掛ける前に「順番に並ぼう。」と声を掛けてくれる子や、「自分は我慢できるから、先にいいよ。」と下級生に手当ての順番を譲ってくれる子もいます。子供たちは、本当に優しい思いやりの心をもっているな、と感じる瞬間です。

その一方で、けがの原因を聞いてみると「だって」「でも」「自分だけが悪いんじゃない」…少し気になる言葉が第一声として出てくることがあります。

人は皆それぞれ違い、考え方も違います。自分の意思を伝えるのは、とてもよいことです。しかし、まずは自分の状況や行動の振り返りが大切です。「振り返る」時間を経て、冷静に自分や相手のことを考え、理解し合うことができるのだと思います。

気になる言葉を口にしていた子も、時間を掛けて振り返ると、自分だけでなく相手の状況や気持ちを理解し、落ち着いて話ができるようになります。その話のなかで、自然と互いを思いやる言葉が出てくるのです。どの子供たちも、根っこには優しい気持ちがきちんと備わっています。

自分を見つめ直す振り返りの時間を大切に、温かい心をさらに育てていくことができるような保健室でありたいと思っています。

スクールカウンセラーより

「一緒の時間」

区スクールカウンセラー 三澤 有香

教育相談室に話に来る子供の中には、ぬり絵やぬいぐるみを使いカウンセラーと遊びながら話したい、という子もいます。「お話をしましょう。何かありますか?」と言葉だけのやり取りをするよりも、ぬり絵等の手先を動かすツールを介しつつ、雑談のようにぼつぼつと話していく方がやりやすい子も多いように感じます。一緒に何かをしているという行為自体も、同じ感覚を共有している気持ちになれるのでしょうか。

それは、御家庭でも同じではないかと考えられます。お子さんの様子で何か気になることがある場合、一緒にお絵かきをしながら話したり、ちょっとしたお手伝いを頼んで会話したりするのも良いかもしれません。おうちの人と話す時間というのは、お子さんにとって特別な時間でもあると思います。是非、その特別な時間を大切にしていだければと思います。

「驚きの小部屋」

都スクールカウンセラー 丸尾 史子

戸三小に来て3か月が経ちました。日々成長する子供たちの姿に、驚きの毎日を送っています。

18世紀のヨーロッパに「ヴンダーカマー＝驚きの部屋」という言葉があります。当時の貴族たちが、古今東西の珍しい品や、時にはガラクタにしか見えないようなものを蒐集した小部屋のことで、現代の博物館の原型なのだそうです。

子供一人ひとりの心の中にも「驚きの部屋」があるのだと思います。自らの好奇心に従ってあらゆるものを心の小部屋に集め、子供たちは自己の世界を創り、広げていく。とりとめのない語りや小さな仕草から、子供たちはその一端を垣間見せてくれます。カウンセラーとして、子供たちの心の小部屋を見守っていきたいと思います。